

第1回仙北市将来ビジョン策定委員会会議録

- 日 時 平成22年11月30日(火) 18時13分～20時25分
■会 場 角館庁舎3階 大会議室
■出席者 委員長 島澤諭
委 員 佐々木恵美子 佐々木美智秋 佐藤慎 佐藤雄喜 杉宮百合子
平野英子 藤枝優子
門脇市長 藤村総務部次長、富岡参事、戸澤課長補佐、武藤主任 13名
■欠席委員 関口久美子 田口知明

1 開会

2 委嘱状交付

3 市長あいさつ

おばんでございます。市から皆様に将来ビジョン策定委員会委員のご依頼を申し上げ、ご了解をいただき、皆様の顔合わせと初めての将来ビジョン策定委員会を開催することが出来ました。心からお礼申し上げます。島澤先生にはご難儀をおかけしますがどうかよろしくお願ひ申し上げます。

この古い会議室から仙北市が大きく変身していく、そのビジョン、イメージづくりをスタートさせていくこととなります。マニフェスト・市政公約は、平成25年までに仙北市はここまで進んでいくという数字的な目標設定とアクションプラン40項目からなっています。それ以降5年くらいを目途に、皆様の考えが仙北市を将来に向けて力強く前進させていく活力になる、そういう気持ちで是非皆様には取り組んでいただきたいと思います。

少し無駄話をするかも知れませんが、昨日と同じ今日ではなく、今日と同じ明日でもないです。

皆さんは多分、こんな風に自分を変えていきたいとか、こういう仕事をもっと進めたいとか、なりたい自分とか、そういうことをいつも思いながら時間を過ごしていると思います。

過去は変えることが出来ません。例えば歴史研究家の方々が解釈の違いを説明して、歴史が一変するということもままありますが、そういうことではなく、事象として過去は変わることはありません。

しかし、未来はいくつもの方向性、筋道があります。そこに到達する、どこに到達する、そういうことを皆さんで考えていただくことが将来ビジョンです。どの道に仙北市が進むべきなのか、在るべきなのかということ、現在の経済状況とか、自分が置かれている立場とか、こういうことを超えて、そういう知識・経験とか、失敗した経験とかは気にしないでください。本当に10年後の仙北市はこうならなければならない、こういう所まで行くはずなんだ、というビジョンを皆さんには議論していただきたいと思います。

例えば医療、福祉であれ、子育てであれ、産業、農業であれ、地域と地域を結ぶ新しい公共的な道路をどうするのかとか、現在庁舎検討委員会で議論していますが、役所をどうするのかとか、病院をどうするのかとか、いろんな話があります。けれども、例えば、あそこはいろんな条件が合わないとか、そういう規制をかけることなく、こういう風な道筋に仙北市は乗って走るべきなのだ、というものを自由に出し合ってもらいたいと思っています。この後、委員長の考え方や事務局の考え方などの提案があるかと思いますが、基本的に自分はそう思います。

ここまで5年間、仙北市は歩みを進めてきましたが、この歩みは、今まで角館・田沢湖・西木という町村があって、それが一つになって5年間経過して、守らなければならないのはこれだな、新しく変えて行くのはこれだな、という程度の成果しか出ていません。自分もこの状況を良しと思っています。しかし、ビジョンというのは、ビジョンがあれば必ずそうなるというものではありませんが、ビジョンがないことにはどこに進もうかという戸惑いだけで時間を過ごしてしまうと思っています。この5年間はそういう時間の浪費した部分もあったのかなと、自分自身を含めて反省しています。そうしたことをここでリセットするため、様々な分野、若手の方々にお声かけさせていただきました。若い人たちが次の時代を背負っていくことは間違いのないことですので、自由に、何ものにも縛られずに、こんな仙北市になるべきだということを是非議論していただきたいと思います。夢物語かも知れませんが、この夢も描けないような仙北市ではいけないと思います。夢に向かって走り続ける、こういう形になりたいと思うことを言い続ける、そうすると必ずその出来事が起こります。そういうことを深く信じてこの委員会を進めていただければと思います。

皆さん、お一人お一人が今まで考えていること、様々な人たちから聞いた話のこと、全て持ち寄り自由にご意

見をいただいたものが、できれば来年発行される仙北市民ガイドにも、将来ビジョン策定委員会の考えた10年後の仙北市はこんな在り方ですよ、ということを広く市民の方々から見ていただいて、それに向かっていくんだという意識をつくっていくということに活用させていただきたいと思います。

どうかいろんなことを考えながら進めていただければと思います。お仕事で疲れておられるのに、夜の6時からこういう会議ということで、重荷に感じているかも知れませんが、最初に話したとおり、この古い会議室で仙北市を変えるビジョンづくりにどうかご協力をよろしくお願い申し上げます。

4 委員自己紹介

島澤諭委員長	秋田大学の島澤でございます。委員の中で一人だけ秋田市在住です。よろしくお願いいたします。
藤枝優子委員	家で米作りと牛の繁殖をやってます、藤枝優子です。よろしくお願い致します。
平野英子委員	このすぐ隣で大野医院をやってます、平野英子です。よろしくお願い致します。
杉宮百合子委員	東前郷でディサービスをやってます、杉宮百合子です。よろしくお願い致します。
佐藤雄喜委員	生田でIP電子という会社を行い、西木・田沢湖・角館の市内で農業を営んでいる佐藤雄喜です。よろしくお願い致します。
佐藤慎委員	角館駅前の瀧神巧業の代表をしています、佐藤慎と言います。建設関係、水門関係など、色々やっています。よろしくお願い致します。
佐々木美智秋委員	名簿の「グルメ久太郎」は、何のことだと思った方もおられたかと思います。家で漬物をやっています。グルメ久太郎という名前を付けた当時はバブル最盛期で、何でもかんでもグルメという名前を付けた時代です。最近は似合わないということで、商工会関係の方々にグルメを抜いてくださいと言っています。始めたのはお袋ですが、今は体調を崩して、自分と妻と父とでやっています。お袋も体調が大分回復しました。今はイブリ漬けの最盛期でイブリ臭いかも知れません。よろしくお願い致します。
佐々木恵美子委員	ピッカブー赤ちゃん会の佐々木と申します。赤ちゃんはいません。10年前に皆さんと赤ちゃん会を立ち上げ、子どもも10歳になりました。よろしくお願い致します。
事務局	事務局職員をご紹介します。藤村総務部次長、富岡参事、戸澤課長補佐、武藤主任です。よろしくお願い致します。

5 仙北市将来ビジョン策定委員会設置要綱について

～ 事務局から設置要綱について説明する ～

事務局	設置要綱に関してご質問はありますか。
島澤諭委員長	会議の進め方にも関係するかと思いますが、議事録は公開しますか。
事務局	公開の市民会議ですので、請求があれば公開します。公開会議なので、傍聴される方は内容が分かります。名前を伏せる必要は無いかと思いますが、委員の皆さんで個人が特定されるのは困るということであれば名前を伏せて公開します。

自由に発言していただきたいので、名前を公表することで発言しにくいということになれば考えなければならないと思います。

佐藤慎委員 公表しても良いと思います。

佐藤雄喜委員 自分の思っていることを発言するから良いと思います。

佐藤慎委員 どうしても公表してほしくない箇所があった場合はそこを伏せて公表したらよいのではないのでしょうか。

事務局 会議録を作成してから、委員の皆さんに確認をしていただくこととなりますけれども、その際に、もし支障のある箇所があれば申し出をお受けしたいと思います。

門脇市長 会議録は市のホームページで公開しますか。

事務局 公開の予定はありません。

門脇市長 公開した方が良いでしょう。

事務局 公開します。

門脇市長 委員の皆さんから会議録をご確認いただいた後に市のホームページに貼り付けさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

～ 委員から異議なしの声あり ～

門脇市長 公表してもらいたくない発言があれば伏せるということも必要だと思います。会議録が出来た段階で判断してもらった方がよいのではないのでしょうか。

6 委員長あいさつ、副委員長指名

島澤諭委員長 委員長を拝命いたしました秋田大学の島澤でございます。秋田市在住ではございますが、委員になってくださいと言われて、かなり迷いました。仙北市民ではないので、仙北市の将来ビジョンにどのような形でお手伝いできるのかわかりませんでした。

2年位前から秋田大学の学生を連れて仙北市でいろんなことをやっています。前の市長さんの時ですけれども、角館の冬の観光をどうするのかということや、去年は、にぎりめし大賞にも参加させていただきました。今年は、ルバーブというハーブからジャムを作ることを行い、販売・商品化を考えていますが、学生と一緒に仙北市をどう活性化させようかとお手伝いさせていただいております。その延長線上で引き受けてみようと思いましたが、先ほど門脇市長からお話がありましたが、仙北市は潜在的な可能性がありますが、それを活かし切れていませんので、それをうまく使って明るい仙北市の将来像を描けたらと思っています。それのお手伝いが少しでも出来たらいいと思います。よろしく願いいたします。

要綱を見ますと私が死んだり、入院したりした場合、私の代わりに務めていただく方を指名しなければいけないようです。平野委員に副委員長をお願いしたいと思います。

7 副委員長あいさつ

平野英子副委員長 会場に一番近いので早く来ようと思ったら、屋上まで行ってしまいました。少しおっちょこちょいのところがありますが、何か和ませられるようなことがありましたらお話しさせていただければと

思います。よろしく申し上げます。

8 協議

1) 委員会の会議の進め方について

- 島澤諭委員長 本日は4つの協議を行います。はじめに委員会の会議の進め方ですが、ご意見ございませんでしょうか。
最終的なゴールは、将来ビジョンの策定ということですが、そこに至るまで数回の会議を開くこととなりますが、その目標を達成するためにはどのような進め方がよいかということです。
これについて皆さんのご意見を伺います。
- 佐藤慎委員 会議の回数は決まっているんですね。
- 事務局 先ほど予定では4回と申し上げましたが、1月上旬、2月上旬、3月上旬と月1回ペースで開催したいと考えています。ただ、この回数でまとめきれないとなれば検討する必要があるかと思えます。
開催時間については、皆さんお忙しい方々ですので、平日の夜に開催したいと思えます。ただし、火曜日と木曜日については、委員の中に都合がつかない方がおられますので、この曜日は外したいと思えます。資料の収集やまとめ作業に時間を要した場合は若干期日がずれ込む可能性もあります。
場所については、今後3回ともここ角館庁舎の会議室を予定しています。日程については、事務局としてはこのように考えています。もし、支障がある場合があれば検討いたします。
- 杉宮百合子委員 もし、開催日が決まっていて、過半数の委員が出席できない場合は、事前に連絡をもらえるのでしょうか。
- 事務局 欠席される場合は事前に事務局にご連絡くださるようお願いいたします。過半数に達しないようであればこちらからお知らせいたします。
- 佐藤慎委員 開催日を決めていただいた方が助かるのですが。
- 事務局 会議の際に次回の委員会開催日を決めるのも良い方法だと思います。その他に、毎回テーマを決めて議論していただくとか、そういうことも必要ではないのでしょうか。今日集まって次回のテーマを決めるというのもなかなか難しいことだと思います。テーマを設ければ議論がしやすいのではないかと思います。
- 佐藤慎委員 4回目でビジョンが決定されるというのは間違いのないことなのでしょうか。
- 事務局 そういう予定ですが、4回で議論がし尽されない場合は、引き続き委員会を開催して議論していただく必要があると思えます。ここでまとまったビジョンは市民に公表しご意見をいただく予定となっています。
- 佐藤慎委員 ビジョンと言われて、皆さんはどう思っているか分かりませんが、私にはあまりにも大きすぎて何を話せばいいのか、何を考えればいいのか、漠然とし過ぎているので、そこら辺の方向性を少し示していただければ意見を出せるのではないかと思います。
- 事務局 市長の公約の中で、市長が先ほどお話ししましたけれども、マニフェストが25年度まで。それ以降は市民の皆さんからのご意見を聴いてビジョンをつくと書いています。これが今回皆さんからご意見をいただいてまとめるということです。
前に皆さんにご案内したときは26年度から30年度まで5年間(予定)とお知らせしましたが、

それとかなり先の話ということあり、そこら辺も検討の余地があるのではないかと思います。これは私個人の考え方ではありますが。

このため、要綱の目的についてもあまり詳しく書きますと、そこにイメージが固まっているようなご意見が出てこないのではないかと言うことで、抽象的な表現にしています。

島澤諭委員長

マニフェストは、かなり具体的なものですが、将来ビジョンはこのように具体的ではなくて、もっと漠然としたものではないのでしょうか。こんなにたくさんある項目全てについて話は出来ませんので、何かのテーマを設けたり、例えば経済状況について集中的に議論するとか、どういう風になっただけなのか、夢とか、こういうことを議論したらいいのではないのでしょうか。例えば所得が何百万にもなっているとか、ということではなくて、もっと、より生活が潤うような状況にするとか。

例えば今から5年後、こういう仙北市になっただけいなという姿をここで話し合うことなのでしょうけれども、そのイメージがなかなかつかみにくいというところが問題なのだと思います。

そもそもビジョンというのは首長さんの夢があって、それを我々がどうサポートしていくかということだと思います。市長さんはマニフェストの後の仙北市はどうなってもらいたいと思っているのでしょうか。語り出すとたぶん何日も話し続けるかも知れませんが、コンパクトにまとめて市長のイメージする将来の仙北市をお聴かせいただければ我々も議論の材料になるかと思われれます。

門脇市長

マニフェストは平成21年につくりましたが、4年間での取り組みの後、25年までにはここまでいかななくてはいけない、という目標設定になっています。マニフェストにはこの後の話には触れていません。これはあくまでも一期4年間でここまで到達しなければならないんだという、そうしないと次の展開に大きな影響があるんだという主張でつくっています。実は4年間で仙北市はそこまでいくのかという議論もあります。この4年間でこれが為し得たとした場合、その後の5年はどうするんだと、例えばまちづくりというのは、その時点で完結するものではありません。これが基礎的なものでここまでは何とかやりましょうという話です。その後の展開というのは、中期的な目標設定がなくてはいけません。このため、将来ビジョンの策定をお願いしたいということです。

例えば、3町村が合併して仙北市になって、北東北の交流拠点都市を目指すという明確な目標、1千万人の観光客の方々に来ていただくまちにするというものがあります。問題はその為にはどのようにやっていくかが見えません。

同じような話をすると、仙北市は国際都市に成りうると考えています。秋田県若しくは東北、日本の中で、国際会議が日頃から行われているような仙北市、世界から日本の純日本文化を体験する目的で訪れる方々が、常に何万人も来ている仙北市、その方々に対して本当に良質の食材を提供するという仕掛けがあったりします。

一方では、例えば障がいを持った方々でも何ら不自由なく仙北市に滞在できますよとか、そういう風な完成度の高い、住みやすいまちづくりをするというのが分かり易いと思います。

日本で一番住みやすいまちが仙北市であって、文化意識も高く芸術産業も若手がアーティスト的な活動をしているというような土壌ができて、秋田県他の24市町村には申し訳ないですが仙北市が秋田県を代表する、日本を代表するまちというところまでいきます。そのためには今、何をやっていかなければならないかということの第1段階がマニフェストです。

そこに到達するまでの4年間分はこれで良いのですが、その後が欠落しているのでそれを埋める作業をするということです。島澤委員長が言ったとおり、どういうものに数値設定をするのかということではなくて、こんなまちになるという確信が持てる、そういう議論でいいと思っています。

例えば世界中の方々が仙北市に滞在して喜びを感じている日々がある、というイメージをふくらまします。そうすると見えてくるのは、道路標識は日本語や三カ国語だけではなく、もっと必要ではないのかと思います。こういうことがそここにあります。

例えば地域運営体ということで9つの地域が各々の地域活動を行っていますが、高度に成熟してくると、地域1つずつがまちになっていきます。そのまちの集合体が仙北市となり、自主権をもった地域の方々が自分たちの経済、産業、雇用、福祉環境などを整備していく市内分権型の地方都市が出来てきます。それをやるためには、例えば地域間のアクセスを整備しようとか、内陸縦貫鉄道は満席でいつも乗れないことが続くんとか、そういうビジョンとか、夢物語と言えそうかも知れませんが、そこに到達することを確信して、そのためには何をやるのかということに

なっていけば、それを埋めるのは事務方であったり、様々な制度を作り込んでいくという作業があったりします。この目標を決めなければいけません。国際都市仙北になっていいのか、それともアジアの産業集積都市、若しくは、アジアの経済ウォール街に成りうるかも知れません。自分たちは最大の効果を発現するために、日本で一番住みやすいまちづくりを進めた結果、こういう風になった。ということにビジョンのイメージ化を図ってもらいたいと思います。

例えば平野副委員長は、医療を24時間体制でやっておられますが、「仙北市はお医者さんの数がそんなにいなくてもいいのよ、健康づくりが日常的に行われているから、お医者さんいらずのまちですよ」というような、そんなまちにするためにはどうしたら良いのかということになるかも知れません。その目標設定をして欲しいということです。自分は偏った人間なので、一人だけではなかなか様々なことに目が届かないので、各分野の方々の専門的な、私の考えだとここまでいくんだということを出していただきたいと思います。

例えば、自動車産業の話で、これから田沢湖地区で電気自動車の社会実験が始まりますが、仙北市で自動車を作るために自分たちはバッテリーの研究を始めるんだと、そういう風な方向に向かって行こうという目標を設定してもらいたい。

平野英子
副委員長

バイオマスのお話を聞いていて、それ自体がよく分からなくて具体的にどうということなのかと思っていました。その中で、稲わらのエネルギーを使うということを知っていてすごくいいことだと思いました。稲わらを燃やす影響による喘息アレルギーを診ていると腹が立って、燃やすな、他の人がどんなに迷惑をしているのか、個人が自分のことだけしか考えていなくて、まわりのことを考えないからこういうことになるんだと考えています。

稲わらはこんなに沢山あるんだから肥料や油や何かに使えば、すごく宝の山になると感じます。そういう発想をしてくれる人はいないのかなと思います。

佐々木美智秋
委員

稲わらは、有機肥料として使う方向に進んでいるようです。

佐藤雄喜委員

稲わらは、藤原養鶏さんに回収してもらって、そこで鶏糞を配っていますが、ここは一次発酵しかしていません。例えば三次発酵まですると、田んぼに使えたり、二次発酵だと畑に使えたり。一次発酵でも畑に使えする場合もあるかも知れませんが、栽培する作物が違ってきます。三次発酵までしてもらえれば田んぼに使えかも知れませんが、これにはプラントが必要になってきます。これは宮城県でやっています。

藤枝優子委員

養鶏業者さんは焼いて乾燥しますが、近所の人たちは焼かれると悪臭が出るので作らないでくれという話が出たそうです。牛の堆肥は田んぼや牧草にやっています。

門脇市長

こういう話になってくると、高度な循環型の農業になるのではないのでしょうか。例えばこんな作物も作れる仙北市になっていくんだという、温暖化が進んできたから別の作物が作れるんだとかというイメージだと分かり易いのではないのでしょうか。

稲わらを燃やすのはもったいない、別に使うんだという発想があるかも知れません。

平野英子
副委員長

稲わらを燃やす場所が一箇所、しかもその熱をエネルギー源として何か出来るとか、そういうものがないのかと思います。そうすると体の悪い子どもたちにも喘息はおきないだろうし、無駄にならずに全部使えるだろうと思います。

佐々木美智秋
委員

稲わらはエタノールですが、もう一つはアブラギリという実から採れる燃料もあります。中国産の木で、大瀧村で植栽したような記憶があります。植生されている緯度と同じなのでどうだろうということを知ったことがあります。

事の発端は燃料があまりにも高いので、それなら自分たちで燃料が作れないかということだったようです。たまたま、農林水産省の人と話す機会があって、エコタウン計画がある、稲わらとか、

アブラギリの燃料を精製する施設を持って来るだけで膨大な金額が入るということを3年前に聞いたことがあります。

門脇市長 エネルギーの関係で、植物や木質からのエネルギーなどを使っていく。それを仙北市民が全て使えるし、販売もしているんだというような目標が決まれば、そのアブラギリを植える必要があるんだ、実験してみるんだということになると思います。

佐々木美智秋委員 アブラギリは垣根代わりにも出来るそうです。国産のものは年に1回しか採れないそうです。

門脇市長 エコタウン構想は制度として今もありますか。

事務局 制度のメニューはまだ拡大しているはずです。

島澤諭委員長 話が進んでいますが、その前に足下をもう一度見つめ直すために、協議の2)に進みたいと思います。manifestoの概要自体はそれほどお話しいただく必要はないと思いますが、manifestoがどの程度進捗しているかという状況について説明していただきたいと思います。

2) マニフェストの概要とアクションプランの進捗状況について

～ 事務局がマニフェストの進捗状況を説明する ～

島澤諭委員長 今説明しましたことに何かご質問等ないでしょうか。

平野英子副委員長 医療の面は分かりますのでお話しします。たぶん、医師の確保はこの10年間、不可能に近いくらい難しいと思います。秋田大学でさえ医局に残る人がいないような状況です。各地方の病院でもいません。大曲でも心筋梗塞は診られなくなって横手に患者を運んでいます。このことと同じように医師が極端に少ないです。

医師を集めるよりは、ヘリポートをつかって迅速に運ぶ、冬はスーパー林道を通して新鮮な魚、野菜を届けると同じように迅速に患者さんを病院に運ぶというような逆の発想をしたり。岩手大学、秋田大学であったり、いろんな所と結びついて、安全に的確に届ける仕組みをつくる方が早いのではないかなと思います。あちこち医師を探して歩き、見つけるのを待っているよりは、それまでのつなぎかも知れませんが、そういうことをした方が早いのではないのでしょうか。

具合が悪くなった人を救急で救おうというのなら、ここの救急ではこれが得意というところへすぐ搬送できるシステムを作っていくのが、スタッフを一人ずつ集めてくるより良いのではないのでしょうか。

例えば、どこかに救急病院をつくとすると、そこに医師が何人必要なのか、当直をするためには交代が必要だし、看護師さんの数を試算するとかなりの額になると思います。ヘリポートだと、ヘリに乗る人間は、若手で運ばなくてはいけないので、どこからかそういう仕事をしたいという人が来るかも知れませんが、「コードブルー」の医師を見て、そういう医師になりたいと思う人間が秋田大学に来るかも知れませんが、いろんな発想をしていくと、この地域だけというよりもまわりと結びついて大きく発展できるのではないかなと思います。

佐藤雄喜委員 勝手な発言ですけれども、角館病院や田沢湖病院を廃止して、神代周辺の、どこから来ても同じくらいの距離の所に大きな病院を整備すると、一つ二つと病院を持たなくても良いと思います。年配の方々には市でバスを運行することも考えなければならないかも知れませんが、一つにまとまればバスで全部を乗せることができる。今だと田沢湖に行ったり、こっちに行ったりと大変ですから、そこに全部の公共施設を集めた方がもっと使いやすいのではないかなと思います。

佐藤慎委員 今の意見に反対ということではないのですが、自分は「まちづくり研究所」という会をやっていて、去年は蔵とか調べたり、いろんな観光地や古い町並みを見学に行ったりしています。まちづ

くりを考えたときに、今、仙北市で話題になっていることは、庁舎だったり、高校だったり、病院のことなどがあると思いますが、それぞれを単体として考えているように感じます。

今回の将来ビジョンのような長期的スパンで考えた場合、一個一個ではなくトータルで、本当にどういうまちをつくっていくのかを考えて、そこから話をしていかななくてはいけないと思います。今はそうなっていないような気がします。この前の高校の問題についても、トータルのまちづくりから見た場合、これでいいのかなと思うことがあります。

今、角館南高校の体育館を建替える調査費の予算が付いたようです。結局、両方の高校を残すことになっていると思います。それはそういうプロセスを経てそうなったとは思いますが、本当に長いスパンで考える時には、トータルで何十年後にどうするかという話に持っていかないと、どれもその場のしぎになってしまいます。

神代に公共施設を全て集約するというの是一個の案でしょうけれども、これは一大事業で、まち全部を壊して新しいまちをつくり直すのは、ものすごくパワーが必要だし、十年二十年で済む問題ではないと思います。そこまで腹を決められるのであればそれでもいいと思います。病院の利便性だけだとしたら、それでまちが良くなると言うには少し疑問です。そこはちゃんと考えなくてはならないと思います。

佐藤雄喜委員 仙北市をこれから発展させようということに対して、市の人口が減ってくるのには目に見えています。この不景気で仙北市の所得が減ってきています。議員の報酬は上がる、公約の時は最低基準に抑えると言ったものが、一年ほどで上がりました。そういう面で、もうちょっと仙北市が潤う方向に持っていかないと、何をやるにしても採算がない、借金です。今後の小さい子どもたちのために借金を残しましょうということなんです。22人の議員を半分にして報酬を下げて、もっと良いことをしたらいいんじゃないでしょうか。市役所職員も私たちより高い給料をもらっているわけですから。美郷町、大仙市でも、0.15月分、8千何百万削減したと新聞に載っていましたが、そんな風に収入に見合ったことをしていかなければ、仙北市を変えていくというときに、それに使う蓄えがなければいけないと思います。

佐藤慎委員 このような形で会議を進めてもいいんでしょうか。

門脇市長 分野別にテーマを決めて話を進めることもいいかもしれません。専門分野を持っている方たちはその分野で話してもらって、他分野の人から見ればこういう見方もあるんだというようなこともあると思います。

佐藤慎委員 例えば、先ほど平野委員から医療関係の話がありましたが、当然、私から医療の話が出ることはありません。こういう話を医師会の人たちと市がやりとりするとか、そういうことをやっているのかと思いました。そういう進め方だと有効な意見が出るかと思っています。

島澤諭委員長 協議の中の意見交換のところでは次回以降のテーマを、10年後、20年後の仙北市がこういう風に輝いていたい、輝いていたい分野をリストアップする。それを具体的に作る作業をする。それについてお話いただこうかと思っています。

次に市民意識調査について事務局からご説明をお願いします。

3) 市民意識調査について

～ 事務局から市民意識調査の説明をする ～

島澤諭委員長 この調査結果を将来ビジョンに反映させることは可能ですか。

事務局 2月上旬に開催を予定している第3回の委員会に結果をお知らせする予定です。

4) 意見交換

- 島澤諭委員長 先ほどから色々お話が出ていますが、例えばエネルギー分野の話とか、病院、庁舎も含めた機能的なまちづくりの話とか、色々ありました。今後将来を考える上でこういうところを話し合いたいというテーマ、話題があれば出していただきたいと思います。
今後3回の委員会がありますが、3回目は文書を作るという会議になるのでしょうか。それともテーマの話をする会議になるのでしょうか。
- 事務局 4回の会議でまとめるというのは回数が少ないと感じるかもしれませんが、3回目までいろいろな議論をしていただき、それをまとめて4回目に皆様に提示し、それを基に修正等をしていただければと考えています。
- 佐藤慎委員 やっと分かってきたなという段階でまとめというような感じになりそうです。
- 門脇市長 年度内に完成しなければならないということですか。
- 事務局 マニフェスト政策1の4番に将来ビジョンの発表が平成22年度となっております。
- 門脇市長 将来ビジョンを皆さんの総意の基に市民の方々に提示することの方が重要なことです。できれば進行状況で回数を増やす。皆さんは、どうして任期がはっきり明示していないかと思った方もおられたかと思います。そういうことも想定していると理解していただきたいと思います。
- 佐藤慎委員 ビジョンについて市長から説明がある前に自分が思ったことは、マニフェストを作った時に市長はビジョンがあって作ったことなのではと。話を聴いたら現マニフェスト以降の事だということになるほどと思いました。この後も決めるのは市長だと思います。当然いろんな意見を聴いているのは市長だし、いろんな人と交流しているのも市長だと思いますし、経営者トップがどう思うかだと思います。それに対して皆さんどう思いますかとなれば、こうなんじゃないですか、というような話ができるような気がします。あまりにも漠然としているような気がします。
- 門脇市長 たぶんそういう話になるのではないかと考えていました。このアクションプランの40項目は、市が出来た時に着手していかなければならなかったこと、要するにやっていなければならなかったことが出来ていない。これが第1章です。
この次の展開になったとき、一人で考えるよりみんなで、専門家のお話を伺いたい。そういった部分でサポートをお願いしたいです。
先ほど平野副委員長が言いましたが、お医者さんを集めるのは無理なんだと、今ある高度医療機関と如何に短時間に患者を搬送するかというシステムを考える、というお話がありました。例えば病院が二つありますが、病院のヘリポート整備は来年秋田県が導入しますから、冬期間にどうするのかという問題があります。ヘリコプターが飛べない期間は半年あると言われてます。移送する場合に秋田市の日赤や大学病院などの高度医療機関に行くためのスーパー林道など交通の整備が必要だというような具体的なことが出てきます。
市民の医療、健康を守るためには救急医療の在り方が重要で、ドクターヘリであり、スーパー林道の整備であるというように具体的になってきます。スーパー林道を通れば仙北市から秋田市まで1時間かかりません。時間的には救急医療に対しての目標達成は出来ると思われれます。
先ほど佐藤雄喜委員がお話した議員の数や議員報酬は、基本的には議員の方々に決めることです。市長が言って決めることも方法としてありますが、こうした場合は議会と執行部側との信頼関係が崩れていくことも考えられます。議員の方たち自分たちの判断で議員提案をしてもらうことが一番いい方法です。
- 佐藤雄喜委員 これが仙北市の特徴だと思います。昔は議員報酬無し、ボランティアの時代があったかと思えます。ところがそういうことが無くなり、これぐらいは欲しいとか。これは議員たちで報酬を決めるこ

とになるわけですから。仙北市は、議員たちにはやっただけ報酬を払うとか。やらない議員もいると思います。

門脇市長 何日来たから、議員活動を何日したからこれだけの報酬だということもありますし、定員条例を自分たちで提案しているところもあります。

●●委員 これも将来ビジョンとして考えてもいいかもしれません。私たちは、一生懸命働いていくらかの手取りの中から税金を払っているわけですから。その人たちは自分で働いた他に、議会に出てきて何回か話をして、一生懸命なのは分かりますが、横柄だとか、それならばそれなりの会議に見合うような報酬であれば市民の方も納得するのではないのでしょうか。

門脇市長 議員報酬というのは生活給ではなくて、議員活動に必要な金額です。

佐藤雄喜委員 それは理解していますが、それをやっている議員と全くやっていない議員がいます。

佐藤慎委員 選んでいるのは市民です。

佐藤雄喜委員 仙北市は議員報酬は市民が決めるんだと、これぐらいが丁度よい、妥当ではないかというの、一つのビジョンとしてあってもいいのではないのでしょうか。

門脇市長 市民の査定による報酬ということですね。

佐藤慎委員 市民感情としては、議員報酬が高い安いではなくて、私たちの生活が議員の人たちががんばっているおかげで良くなっていけば誰も文句は言わないと思います。そうならないから不満があるんだと思います。そこを査定するシステムがあってもおもしろいかもしれません。

佐藤雄喜委員 名古屋でも世間の話題になっていることもあります。そういう話題性があっても良いかも知れません。

佐藤慎委員 この前の市議会議員選挙の時も、本当に出来る人であれば10人で十分ではないかというような意見もありました。

門脇市長 将来ビジョンに向けては、市民の意見が反映されるような制度の確立が必要になってくるのかも知れません。

佐藤雄喜委員 市民の暮らしやすさについて、市民税とかが少しでも軽減されるようになれば仙北市に人が集まってくるかも知れません。あそこの市は税金が安いとか、そうなれば仙北市に住んで大曲の職場に通うということもあると思います。

佐藤慎委員 岩瀬橋を越えたあたりに家を建てている人が結構いるという話も聞きます。

門脇市長 先ほど人口は減るしかないというお話がありましたけれども、そういう制度的なことを行うと周辺部から人口を移入することは出来ると思います。例えば子育てであったり、福祉であったり、仙北市は充実しているとなれば、勤務地が大仙市ぐらいなら、ここに住んでいるとどこにでも行けますから、そういうことで移住者が増えるという政策をつくっていくことが出来ます。

出生数の話になると、結婚する人たちが少なくなっていることが関係してきますが、社会的動態を増やしていく政策を実施していくのも非常に大きな将来ビジョンの集合だと思います。

佐々木恵美子 私が住みたいと思ったのは、「さくらぎの里」のような新しい一戸建ての公営住宅がいっぱい

委員	あるところで、割と手狭ではなく、大家族でも住めそうなところですよ。そういう人たちが住みやすいような支援をして、若い人たちに入居していただくようなビジョンも良いかと思います。
門脇市長	<p>住宅政策は分かり易くて良いです。あまり家賃が高くなく、学校にも通いやすいとなれば、都市政策上は有効だと思います。公営住宅は色々難しいこともあるかと思いますが、先ほどもお話ししましたが、難しいからという理由でブレーキをかけないビジョンづくりをしてもらいたいと思います。先ほどの話で、それは議員から問題が出てくるのではということには気にしないで意見を出していただきたい。</p> <p>神代地区に庁舎、病院等公共施設を集約するという意見がありましたが、これも二つの考え方があり、一つは分散化、もう一つは集約化です。まち全体で分散化していく、集約していくことは、色々な場面で使い分けて良いと思います。</p> <p>地域運営体の話ですが、地域はどんどん分散して行って、そこで力を蓄えていく考え方もあります。行政は集約するのですが、窓口は各地域にあった方がよいのではないかと、みんなが如何にここに住みたくなる、住んでいたいまちをつくるということです。</p>
藤枝優子委員	<p>ある程度決まった給料の中でのやりくりの他に、ちょっと上乗せして自分で自由に使えるお金が必要だと思っています。</p> <p>家は農家ですが、今年は大打撃でマイナス240万円。そうなった場合に、牛を飼っている分、収入の上乗せがあったと思っても、農薬肥料代を支払って、牛の飼料の支払いをしたらマイナスだと。子どもが4人いて、それぞれ好きな部活をやっていますが、どこでストップをかけるかすると子どもに係るものにストップをかけることになります。そうなったときに、角館には武家屋敷やサクラがあるので観光客が来ます。田沢湖は温泉など良いところがいっぱいあります。どうしてだろうと思ったのが、直売所に来た観光客全員に「どうしてこんなに売り込みが下手なまちなんだろう」と言われます。</p> <p>農業収入が減ってくると、例えば水門が壊れたと言っても完璧な修理は出来ません。取水口が上がる程度ぐらいの修理しかできません。何年も年月がたてばそれも全部ストップになってしまいます。使えなくなったから、何百万かかると言われたときに農家に底力がないとき、田んぼは紙切れ一枚の状況になってしまいます。</p> <p>観光客から、どうやってお金を使ってもらおうかだと思います。</p>
佐藤雄喜委員	この前、農協の人と話しましたが、仙北市のあきたこまちは美味しいのですが、これを他のあきたこまちと混合して売ると美味しくないとされているそうです。仙北市独自に、例えば「仙北市米」とかを販売するのも良いかと思います。
佐藤慎委員	男性の料理やグルメの雑誌などありますが、最近、「あきたこまち」という言葉が出てきません。売り込みが下手なのか、JAが頑張っていないのかは分かりませんが、米の特集のページを見ても「あきたこまち」は見あたりません。
藤枝優子委員	東京駅で、以前は角館のサクラのポスターを貼っていたところが、山形の米「はえぬき」のポスター一色に変わっていました。山形で出た新しい品種が最高に美味しいと、どの本を見ても出ています。
佐藤慎委員	大阪の米屋さんが言ってましたが、秋田の米が美味いまずいではなくて、商売の方法が下手だと言っていました。取扱量が前に比べるとかなり少なくなっているという話でした。商売下手なんだなと感じています。
佐々木恵美子委員	<p>逆にチャンスなのではないでしょうか。あきたこまちは人気が無いというけれども、さっき言ったとおり、仙北市のブランド米として美味しいものを、あきたこまちじゃなくても良いので別の品種でもよいのではないのでしょうか。</p> <p>テレビで見ましたが、山形かどこかの暑さに強いお米ができていて、それが美味しいそうで</p>

す。それを品種改良して、仙北市のブランドとして売るとチャンスなのではないでしょうか。

あきたこまちの人气が落ちてきているところに、仙北市米が美味しいとなると、あきたこまちじゃないところから食い付いてもらう方法もあるのではないのでしょうか。

佐藤雄喜委員

それを行うとなるとここだけでは無理だと思います。試験場などの兼ね合いもあります。

仙北市として米のブランドをつくる。そんな企業をつくる。ということも考えられると思います。例えば「あきたこまち」、農協推薦の「ゆめおぼこ」、「たつのもち」など、これらを仙北市で作って全国に発送しましょう、という発想も考えられます。今、TPPについて議論されていますが、これからは米の値段も底になってくると思います。こういう状況で仙北市の農家をどうやって守るかと考えれば、そういうことが必要ではないのでしょうか。

私の概算では、米60kgで13,500円から14,000円あればだいたいペイ出来ます。私は25町歩を経営しているので14,000円あれば採算が採れます。

門脇市長

農林業が基幹産業と言われていますが、そういう状況の中でお米から脱皮していこうと、米だけではなくていろんな作物を作る、複合経営を行おうということが今の農業の政策です。逆に今の話は米で金儲けするという、全く新しい考え方です。その仙北市米、仙北市で混じりつけのない美味しい米を作っていくことで、米で農業所得を高めていくことに関して、委員長は経済学者なので、お話ししたいことが沢山あると思います。

島澤諭委員長

将来ビジョン策定の為に、どういう分野で日本一住みやすいまちをつくるのかということなんです。日本で一番住みやすいまち仙北市にするために、いろんな所で頑張っていれば当然それは到達できるでしょう。しかし、全ての所に力を注ぐのはなかなか厳しいので、特にこういう分野で輝かせたい、という認識を共有しておかなければ今後の進め方にも関わってきます。今後進める上で、これが重要なんだ、これで頑張っていけば日本で一番住みやすいまちになるんだということを確認しておきたいと思います。

農業とか、エネルギーとか色々ありますが、所得、産業振興からも、今の話をまとめればそういうことかも知れません。医療、福祉の面で副委員長の言っていることを進めていけば、住みやすいまちになると思いますし、テーマを絞る必要があるのではないのでしょうか。

佐藤雄喜委員

仙北市に福祉施設はどれぐらいあるのでしょうか。

杉宮百合子委員

かなり増えてきているようです。デイサービスをやっていると、泊まりも作ってくださいと言われる。簡単なおもてなしががちですが、例えば認知症など家族でなければ分からない部分もあり結構大変です。

藤枝優子委員

農家だと、自分の家にそういう人がいると、せめて田植え・稲刈りの時だけでも預かってもらいたいと思います。田んぼにいるとき、オムツを替えなくてはと家に戻るわけにもいかないことですから。

杉宮百合子委員

寝たきりの人より徘徊する人の方がものすごく大変です。寝たきりの人だと、時間に合わせてオムツ交換したりするくらいですが、認知の人だと、動き回り、自分のやっていることが分からない状況です。

佐藤雄喜委員

仙北市にはその対象者を収容できるぐらいの施設があるのですか。

門脇市長

まだ不足している状況だと思います。ただ、この状況というのは数字ではっきり見えてこないようです。というのは、家庭の中で情報を外に出さないということもあります。

5月から8月にかけて仙北市で高齢者実態調査を実施しました。民生委員の皆さんが一軒ずつ聞き取り調査を行い、2,300軒くらいの方々から回答をいただきました。

分析したのを見たところ、例えば、冬期間の一人暮らしは大変なので、集合住宅等で共同生活をしてもらう方が安心感も高いし、雪寄せの必要も無いのではと思っていました。ところが高齢者の方々は、それはいやだと。自分が動けるうちは人様と一緒に暮らすよりは自分の家にいたいと思っているようでした。数字では60数パーセントでしたが、数字を見て初めて分かるものです。

杉宮百合子
委員 妹の姑さんの話ですが、おばあちゃんが80歳を過ぎたので、かわいそうだからと東京から夫婦で実家に戻りましたが、ばあちゃんが自由にならないので、結局東京に戻りました。

門脇市長 日本一住みやすいまちづくりをするためには、市民と行政が考えた住みやすいまちづくりは相当違いがあるのではないのでしょうか。

藤枝優子委員 ショートステイはありますが、田植えの時、植え直しまでの間1ヶ月預けたいと思ったときに、2週間しか預けられないということでした。にしき園に2週間お世話になって、その後、他にお世話になるなど転々として、決まるまでも長い日数がかかります。

高齢者から見た福祉だけではなく、家の人から見た、お願いしたいときに頼める福祉が必要なのではないのでしょうか。

佐藤慎委員 福祉施設を民間が経営するのは、国の補助も減りどんどん大変になっているという記事を新聞等で見ました。建設業も不況なので、異業種参入ということで何社かこの辺でもそういうことをやっている方もいるんですけども、大変になってきているということはそれが問題だということだと思います。ニーズがあっても誰もやらないというのは、そこをクリアしていかないといけないのではないのでしょうか。

藤枝優子委員 家族の所得に見合った支払いが出来ればよいのでしょうか。

佐藤慎委員 それだけ手間がかかるということは、それなりの支払いが必要になってしまうのではないのでしょうか。

藤枝優子委員 長期に預かってもらうとなると、秋田市で月に十何万円かかるそうです。自分の給料と旦那の年金が全ておばあちゃんのところについて、大変だという話も聞きました。

佐藤雄喜委員 そういうこともあるから住みづらいのではないのでしょうか。入所したい人をうまく回していけない。そういう施設も全部一体となって、情報交換しながら回すと違ってくるのではないのでしょうか。

病院でも、患者が3時間も待たされたりすると、あっちの病院に行った方が早いですよと言われたという話も聞きますが、これも似たようなことではないのでしょうか。そういう情報交換があれば良いのではないのでしょうか。

門脇市長 角館病院に朝早くから行って、非常に大変だったりするわけです。本人は2時間も3時間も待つわけですが、何故、インターネットとか電話とかで受付してもらえないのかと思います。今だったらこれだけの待ち時間がありますよということを皆さんにお知らせしてくれないんだという、当たり前のお話ですけども、家にいて待ち時間が分かるならその時間に合わせて行くことが出来ません。

藤枝優子委員 去年の冬びっくりしたのは、あるおばあちゃんですが、息子さんが仕事に行くときに病院に降ろされて、おにぎり一個だけ持って、夕方5時になれば迎えが来るからということで、診察するわけでもなく病院にいました。家にいると火が危ないとか、そんな理由もあるようですが。

平野英子
副委員長 今日そういう人が一人来ました。昨日から具合が悪くてめまいがしているのに、娘さんが見てない、いやだから置いていってしまう。おばあちゃんにいつから具合が悪いのかと聞いても要領

を得ませんでした。血圧を測っても薬は勘弁してくれと言われ、それじゃ困るんだなど。家族が働いていて忙しいなどの事情があるのも分かりますけれども、どこまでどう具合が悪いか家族から聞きたいのに。仕方なく、寒いところに置いておけないから、うちの病院で夕方まで待っていただきました。

もうちょっと早く、気づいた時に来ていただければと家族に伝えると、「ここは、夜間はやってないですよ」と言われ、それなら大きな病院はと聞くと、「知らない人に一から自分の話をするのもいやだし、病院は医者をしよっちゅう代えるからやだ」と言われました。

佐藤慎委員 夢をつくるビジョンの話ですが、自分が思ったのは若い人の定住化とか色々重要になってくると思います。私は自分の会社がありますが、もしそういう柵がない場合に、ここに住んでいるのかなと思います。現実には若い人が住んでいます、そういう人たちはどうしてここに住んでいるのかなと思います。それが、家の仕事があるからとかそういう理由だと思うのですが、私はこのまちなこのところが好きだから住みたいんだと思っている人がどれくらいいるのでしょうか。

門脇市長 今の状況だと、仕方がないから住んでいるということではないのでしょうか。消極的な居住だと思えます。これを能動的な居住にしていくということ、市内の方々の思いが変わっていくことは、当然、市外の方々もあそこに住みたいと思うことだから、そういうまちづくりが出来れば良いと思います。

佐藤慎委員 それは相当大変なことだと思います。所得が東京の半分で家賃は半分以上係りますから、物価の差というのは単に半分では済まないと思います。

門脇市長 それ以外の価値観を感じてもらうことが出来れば良いと思います。

藤枝優子委員 角館に住んでいる小学生に聞けば、お祭りがあるからどこにも行かないと言います。

佐藤慎委員 角館丁内では私のまわりにもそういう人はかなりいます。

藤枝優子委員 私の二番目の子どもは高校三年生で、仙台方面に行くことになりましたが、戻ってきたときの職を考えれば、戻ってこれるかはわかりません。

佐藤雄喜委員 誘致企業なりの大きなもの呼んで所得を向上させないと住みよいまちは出来てこないのではないのでしょうか。

門脇市長 自分は今、所得所得と言って何でも金に換えていく守銭奴になっています。

佐藤慎委員 やっぱお金は大事です。

佐藤雄喜委員 でも、誘致企業が仙北市に来るのは、給料が安いからです。

門脇市長 昔は給料が安いということで、来た企業もありましたが、今はそれだけでは企業は来てくれません。そのために全部の企業に企業誘致の声かけをしていくのではなく、仙北市はこういう産業でいくんだという、例えば大館だったらマイクロファーム、医療関係だったり、小坂だったらレアメタルの鉱山として集積していくんだとか、きっちりとしたことをしていくんです。仙北市がどういう市になるかという、そういうビジョンでこの分野の産業集積をしていこう、というところを皆さんに議論していただきたい。

自分はこれからはエネルギー産業だと思えます。地元の中小などの自動車修理工場の方々が集まって電気自動車協会を作って、自分たちでモーターを作って走らせる、ということをやれば少しずつ進んでいくと。こうして電気自動車が仙北市で生産されることになったと、ということになればおもしろいと思います。

藤枝優子委員 そここまでにかかる経費、中小企業となれば自己負担はかなり厳しいのではないのでしょうか。

門脇市長 例えば、そういう産業を興した場合、市は徹底的・重点的に予算を投下していくこととなります。そういうことが何も無いと、あっちにもこっちにも気を使わなければならないので、これくらいでと少しずつぼちぼちと使ってしまう。それを回避するためにも主要産業はこれだということを明確にする必要があります。

佐藤慎委員 私の頭の中では、他の市町村と比べて優位に立てるのは観光業しかないのかなと思います。そういう頭になってしまっています。本当は、工場とか農業とかあるんでしょうけれども。

門脇市長 角館は元々、物作りで成り立ってきたと思っています。そこで、物作りを徹底的に応援していくまちになって欲しいと思うこともあります。当然、観光も物作りです。

島澤諭委員長 次回のテーマとして、大きな部分で所得向上、要は産業の振興です。どういう産業を進めていったら良いのかということを議論していったら良いと思います。一回の会議でいくつもできませんから、一回に一つのテーマでいきたいと思います。

佐々木美智秋委員 集中的に議論した方が良いと思います。所得が向上しないと話にならないし、所得が向上することで医療や福祉、定住にも繋がることだと思います。

佐藤雄喜委員 市長が言ったとおり、今回は、どういう産業を仙北市として進めたら良いのか、皆で案を出せば良いと思います。

門脇市長 出来るだけみんなが関わりを持てる産業が良いことだと思います。自動車産業は3万点ぐらいの部品が必要で、裾野が広いと思ったのですが、電気自動車は部品が少ないです。そういう観点からするとあまり適切でないのかなと思うこともあります。
どの分野を伸ばすのか、どの分野を強くするのか、ということではないのでしょうか。

島澤諭委員長 今回は産業について話をしたいと思います。

9 その他

島澤諭委員長 次回開催日を決めたいと思います。今ここで決めますか。それともいくつかの案を提示して決めたらよいのでしょうか。今回は1月上旬でしょうか。

事務局 1月上旬としたのは、会議録と資料の作成を行い、それを事前に委員の皆様へ配付する時間を勘案したものです。もし、資料作成等に時間を要しないならばもっと早く開催出来ると思います。
今日の流れだと次回のテーマは産業で、資料が必要無いとすると12月の遅くない時期か、1月の10日の週の頃かと思います。このうち火曜日と、木曜日を除いた日になります。

島澤諭委員長 12月の中旬の方がよろしいですか。

佐藤慎委員 私は、12月14日から18日までは予定が入っています。

佐々木恵美子委員 1月13、14日は予定が入っております。

事務局 会場が寒いので次回からは角館交流センターの研修室にしたいと思います。

島澤諭委員長

長時間のご議論ありがとうございました。次回は日程調整をさせていただきたいと思います。これで会議を閉じます。

10 閉会